

平成23年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目：一般研究

研究代表者：原 隆一（大東文化大学 国際関係学部・教授）

研究分担者：なし

研究題目（和文）：

西アジア乾燥地域における伝統的水利用技術と農村開発

研究概要（和文）：

2011年度、海外現地調査を2回実施した。

第1回は、2011年夏、9月11日から10月1日まで21日間、東地中海の背後にあるヨルダンとレバノン国の乾燥地方を訪ねた。ヨルダン国では、JICA事務所の紹介により現地の農業普及事務所（Agriculture Extension Unit, The Ministry of Agriculture）の案内で水利用の現状を観察した。マアン、アカバ、アル・ショバク、アル・ラッパの各地事務所ではワディと呼ばれる乾燥地域の水利用を、デッレ・アッラ-事務所ではヨルダン渓谷の半乾燥地域の水利用の現状を観察調査した。

第2回は、2012年春、3月5日から3月26日まで21日間、東地中海の背後にあるイスラエル国南部ネゲヴ沙漠地方にあるベエル・シェヴァ、スデ・ボケル、アヴダット、ミツペー・ラーモンを訪ねた。スデ・ボケルでは、ネゲヴ・ベングリオン大学ヤコブ・バルスタイン沙漠研究所のベルリナー所長（2001年11月～2002年10月の1年間、鳥取大学乾燥地研究センターの客員研究員）を訪問し、当研究所の研究活動の現況を聞いた。同研究所にある社会経済部門（The Social Studies Unit）には2名の研究者（キブツ社会の変化の研究、ベドウィン社会の変化の研究）がおり、ベドウィン社会研究の第一人者であるクレッセル教授と意見交換する機会をもった。イスラエル北部はゴラン高原から流れ出す水源がガリラヤ湖に流れこみ、そこからヨルダン川、そして死海へと流れ込む国境をまたぐ水源の状況を観察することができた。ここの地下水源は国際紛争の焦点になっており、水と土地をめぐる紛争はパレスチナ問題の核心的な問題でもある。

国内では、2012年02月18日、大東文化大学東洋研究所主催の研究会において「乾燥地の水資源利用と農村開発-ヨルダン国の事例-」の題目で口頭発表を行った。